

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会（第1回） 委員・団体からの主な意見

今後の薬学教育モデル・コア・カリキュラムの在り方について

○薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案について

- ・Dの「臨床に繋がる医療薬学」について、臨床につながらない医療薬学もやっていると誤解されるおそれがあるため、シンプルに「医療薬学」という記載でよいのではないかと。
- ・A（薬剤師として求められる基本的な資質・能力）の6「情報・科学技術を活かす能力（仮称）」について、実際はそれを業務で使っていきたいということだと思いが、説明文の最後が「～医療・薬学研究を実践する」となっており、これでは研究を実践するだけに読まれてしまうのではないかと。

○日本病院薬剤師会からの御意見

- ・10の資質・能力、アウトカムに対してルーブリック評価をつくって、評価をしていくのが本来のOBEであるため、現行のコアカリは中途半端なOBEとなっている。
- ・8疾患問題について、広く浅くより1つの疾患であってもより深く。ただ、がん、循環器、感染症などを必須項目としていくような新しい視点が必要にもなる。
- ・ルーブリック評価については、薬局、病院で同じ評価ができることが望ましく、さらには卒前・卒後の一貫した評価ができることが望ましい。
- ・チーム医療に関して、チーム医療は学生本人のパフォーマンスだけでも評価できず、チームによっても決まってきてしまうので、評価が非常に難しい。また、これまでのコアカリに関しては、理想として書いてあり、学生が到達すべき最低限に留まらず薬剤師としてあるべき姿が含まれるということがあったので、実際には参加・体験の解釈は施設任せになることが多い。
- ・病院の業務は発展的展開を遂げており、実際に学生にそれを体験してほしい。実習に取り入れていかなければいけない。
- ・学生は実践・体験・参加型を求めている。コアカリの表記はOBEならば、学生が主語になり、学生・指導者が共に理解しやすいものであってほしい。さらに、コアカリの表現としてはminimum requirements、病院・薬局に関してはそれが一番いいのではないかと。それが難しいのであれば、これはガイドラインという形になるかもしれないが、実践の義務・優先順位づけが必要になると思う。

○日本病院薬剤師会の御意見に関連して

- ・OBEになるべく近づけるといことで、「学習事項」は今まで勉強してきた知識を確認して、その知識を使えるようになることが「学習目標」。「学習目標」の到達度をある程度測定する形のルーブリックを

つくってあげばいいのではないかと考えている。

- ・実務実習という、まるで作業をして調剤をして薬をつくる実習のように感じてしまうが、臨床に対応する実習だということを規定する方向で進めていけたらよいと思っている
- ・今までほとんど F は実務実習と事前学習しかなくて、現場に行って初めて処方解析したという話も聞いた。そんなことがないように、大学でまずは事例としてきちっと一人一人の治療に責任を持って、今まで学んだところを使っていく。その基本が医療薬学にあるのかなと思っている。

○日本薬剤師会からの御意見

- ・医療は患者中心であるという、倫理観を大学としてしっかり教えていただきたい。それから薬剤師や職員とのコミュニケーションがとれないようでは、患者の相手はできない。連携、薬学管理、介護の分野、OTC、IGT、そして感染症、このようなところをコアカリではしっかり入れていただきたい。
- ・国家試験対策に注力し過ぎず、臨床に出て活躍できるような薬剤師の育成が求められている。そのため現在の臨床を理解している実務家教員の育成、配置を十分に行う必要があると考えている。
- ・医療は常に進歩している中、新しいものができたときに基礎のサイエンスがないと絶対に理解できない。そのため、基礎の科学が分からない学生が薬剤師とならないよう大学には注意していただきたい。

○日本薬剤師会の御意見に関連して

- ・病気になってから薬剤師が接するというモデルを踏襲している限り、OTC といつかセルフメディケーションはなかなか難しいと思う。だから、病気になる前、あるいはよく分からないときに薬剤師の仕事だという考え方を今回のコア・カリキュラムではぜひ打ち出していきたいと考えている。

○全国薬害被害者団体連絡協議会からの御意見

- ・現行のコアカリでは、A や「医薬品の安全性」に「薬害」という言葉が載っていたが、改定案では「薬害」が消えてしまっている。新たなモデル・コア・カリキュラムでも、質・量ともに、これまでと少なくとも同等かそれ以上に薬害防止に向けて必要な教育がなされるように薬害防止の観点は入れていただきたい。

○全国薬害被害者団体連絡協議会の御意見に関連して

- ・医薬品の安全性を非常に重視していますし、また、薬害についてもほとんどの大学が被害者の方をお呼びして聴くようなスタンスを取っています。しかし、お示しした資料の中に「薬害」という言葉が登場していない点については考えるところです。次回お示しする案の中には薬剤師の使命というようなことがもっと明確な形で記載され、そこに薬害等も登場することになると思っております。